

平成25年度

認知症介護保険未利用者  
実態調査報告書

平成26年3月

出雲市

(公益社団法人) 認知症の人と家族の会島根県支部

出雲高齢者あんしん支援センター

## 目次

---

I. 調査の概要	1
II. 分析対象者調査結果	
1. 調査対象者の状況	2
2. 分析対象者の状況	6
3. 今後の課題	14
III. その他の調査結果	
1. 入院者と在宅生活者の状況	15
2. 5月以降サービス利用開始者の状況	20
3. 死亡者と転居者の状況	22
IV. 資料等	
・ 認知症高齢者の日常生活自立度評価基準表	
・ 認知症介護保険未利用者実態調査票	

---

# I. 調査概要

## (1) 調査の趣旨

要介護認定（要介護2～5）を受け、かつ認知症（疑い含む）の状態であるにも関わらず、介護保険サービスを利用されていない方を対象に実態調査を実施し、認知症本人やその家族が抱える課題を把握することにより、出雲市における認知症施策や支援に向けた検討の基礎資料とする。

## (2) 調査対象

出雲市に在住し要介護認定（要介護2～5）をうけ、かつ認知症自立度（認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ～M）を有するが、平成25年4月の給付実績がない要介護高齢者263件を対象とした。以下、要介護度別件数を示す。

要介護2…92件 要介護3…50件 要介護4…47件 要介護5…74件

## (3) 調査期間

平成25年8月1日～平成25年10月30日

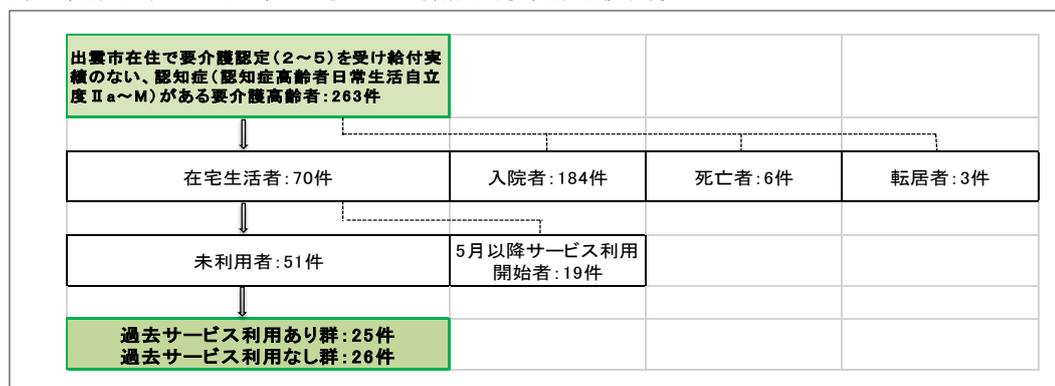
## (4) 調査方法

訪問又は電話による聞き取り調査。

## (5) 調査状況

- 1) 調査対象者263件のうち、医療機関入院中など出雲市で把握する130件を除く133件について訪問又は電話による聞き取り調査により回答を得た。
- 2) 本報告書では、平成25年4月末の時点で調査対象者のうち在宅介護サービスを利用していないものを「未利用者」として分析対象とした。4月の給付実績をもとに対象を抽出したため、調査時期である10月末までに在宅介護サービス利用を開始したもの21件、出雲市外への転居3件、死亡6件があり、それらを未利用者とは区分し、分析より除外した。
- 3) 年齢は平成25年4月1日時点の満年齢を使用。

図1



## II. 分析対象者調査結果

### 1. 調査対象者の状況 (n=263)

#### 基本属性

調査対象者の性別は男性 106 人、女性 157 人。それぞれの平均年齢は男性 78.3 歳、女性 83.9 歳であった。全体では 81.6 歳で、要介護 3 が最も平均年齢が高かった。認知症高齢者の日常生活自立度の割合ではⅡb89 人、Ⅲa82 人、Ⅳ49 人で多く、平均年齢はⅡb の 83.1 歳が最も高かった。

図 2

性別 (n=263)

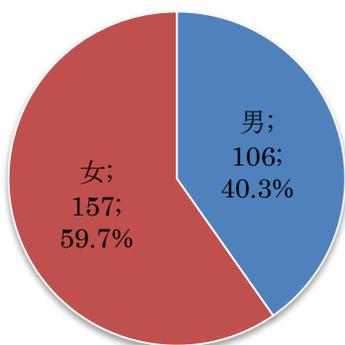


図 3

年代 (n=263)

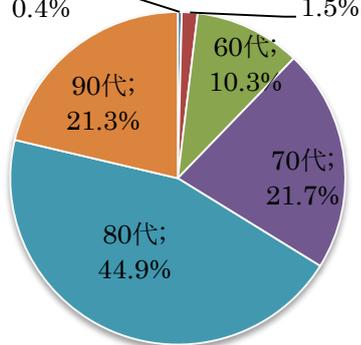


図 4

要介護度 (n=263)

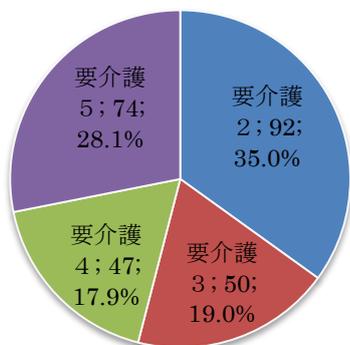


図 5

認知症日常生活自立度 (n=263)

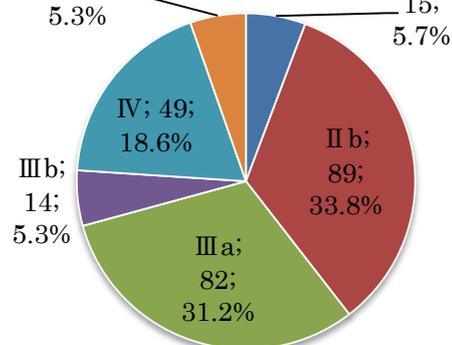


表 1

	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
人数	92	50	47	74
平均年齢	81.7	82.6	81.6	81.0

表 2

	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M
人数	15	89	82	14	49	14
平均年齢	80.3	83.1	82.2	82.6	79.3	78.0

※参考資料「認知症高齢者の日常生活自立度評価基準」

### 年代別の要介護度/認知症高齢者日常生活自立度

調査対象者の年代の割合は、80代が44.9%と半数近く占め、次いで70代が21.7%、90代が21.3%で、70代から90代で全体の9割近くを占めていた。要介護度別の割合では要介護2から要介護4では全体の割合に近いものの、要介護5では60代以下が占める割合が40代1.4%、50代2.7%、60代13.5%と割合に違いがみられた。認知症日常生活自立度から見た割合ではIVに占める60代以下の割合が28.5%と多く、他の自立度との違いがみられた。

図6 要介護度からみた年代状況

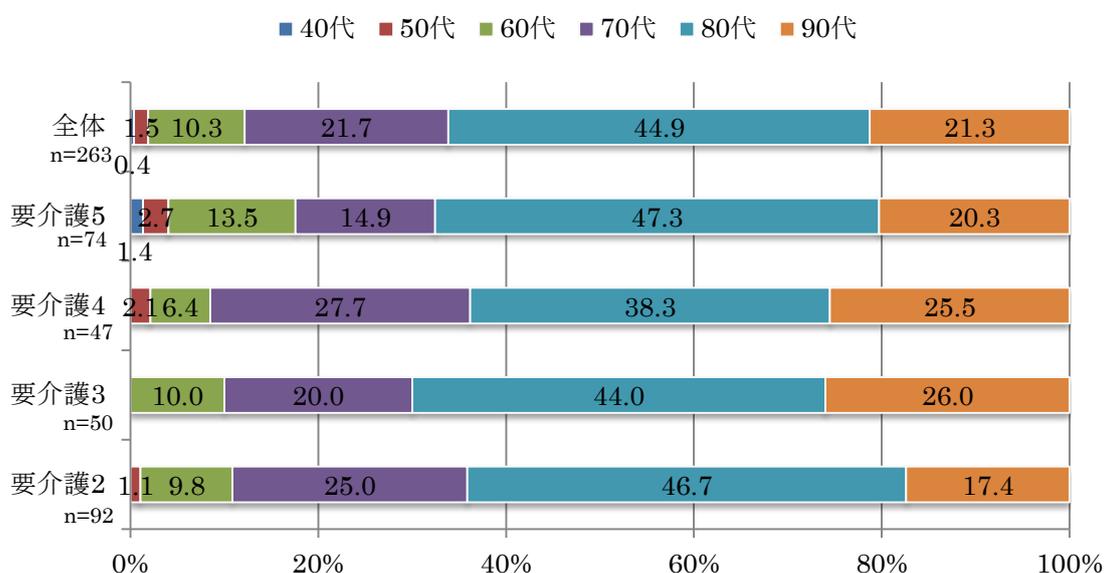
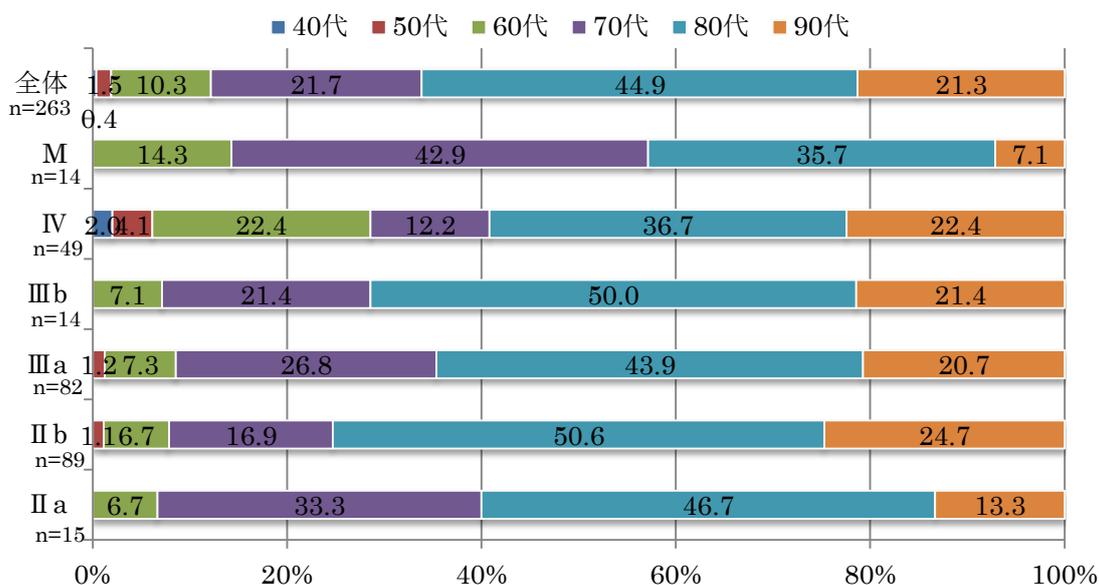


図7 認知症日常生活自立度からみた年代状況



## 要介護度と認知症高齢者日常生活自立度

要介護度別に占める認知症高齢者日常生活自立度の割合では、介護度が高くなるほど認知症高齢者日常生活自立度が重度となっている。認知症日常生活自立度に占める要介護認定の割合においても、重度になるに従い介護度は高くなる傾向がみられる。

図 8 要介護度からみた認知症自立度状況

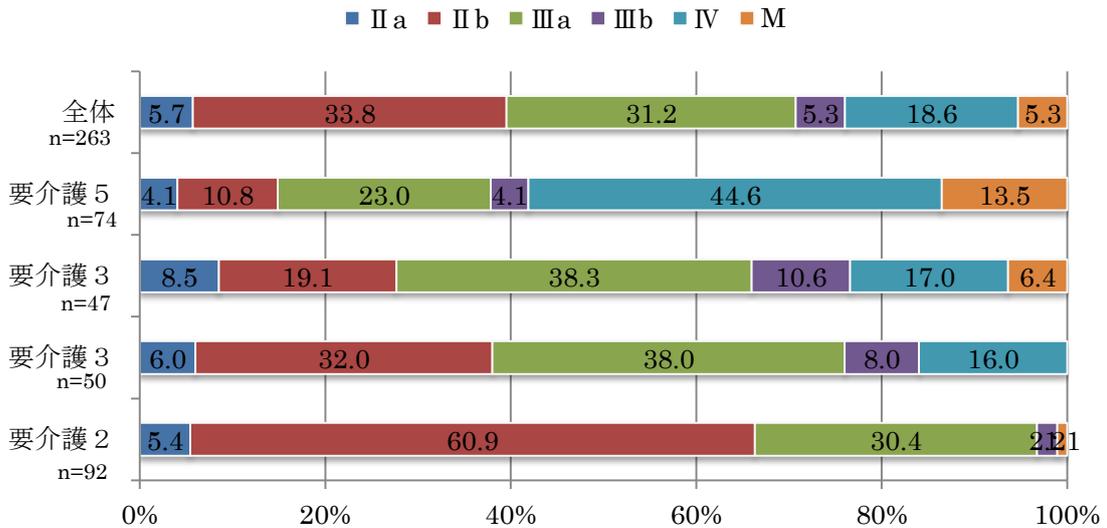
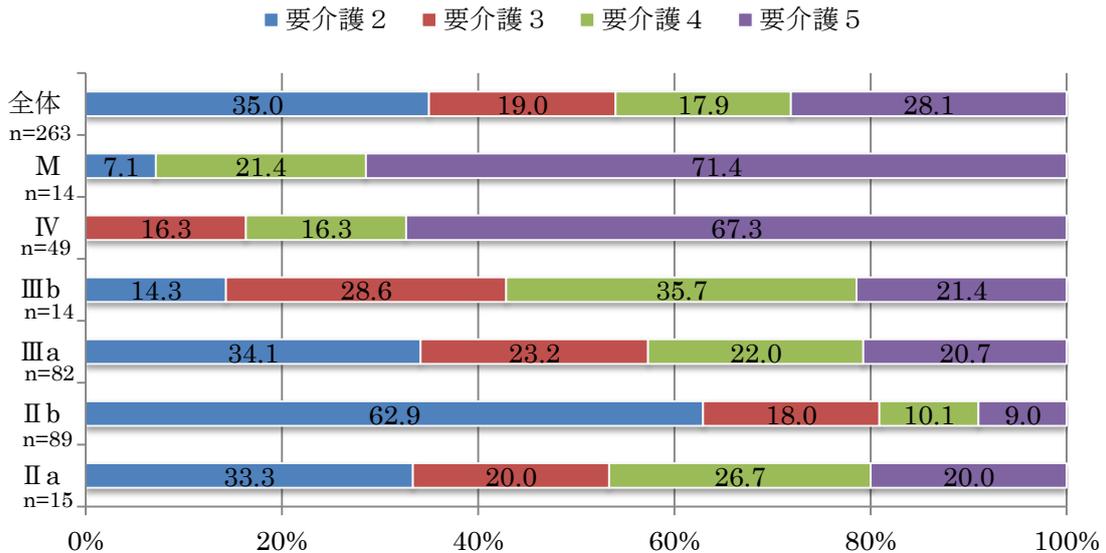
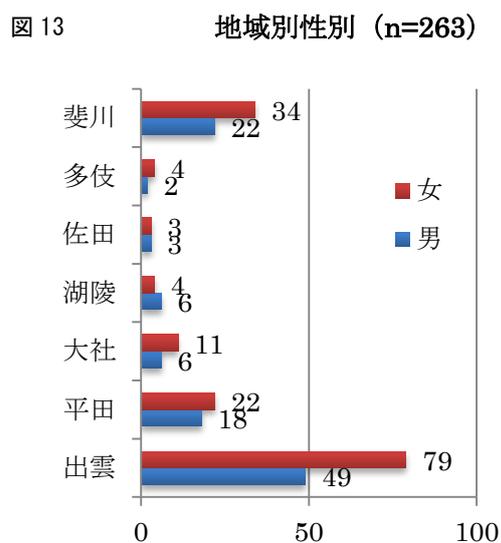
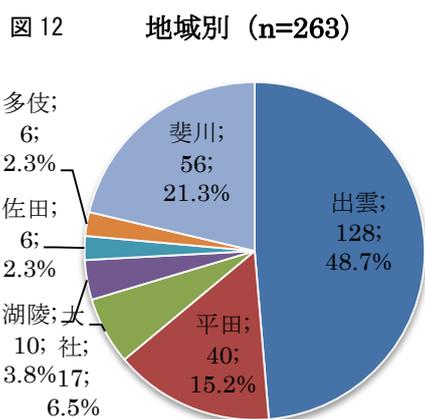
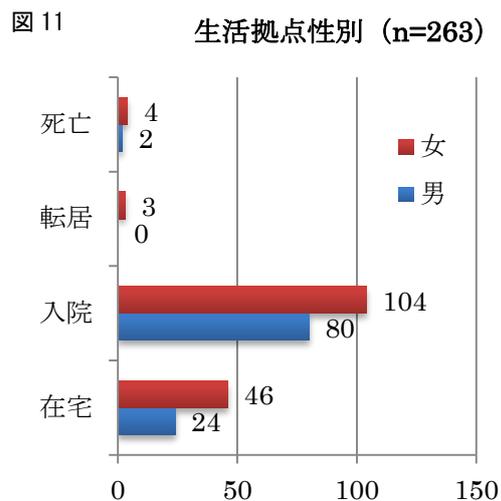
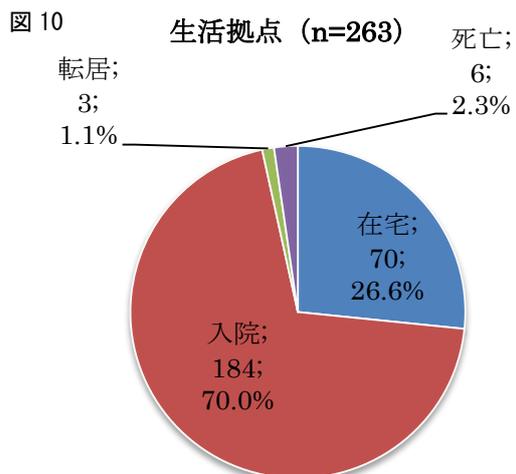


図 9 認知症日常自立度からみた要介護度状況



### 生活拠点と地域別の状況

調査対象者の生活拠点は、入院 70%、在宅生活 26.6%、死亡 2.3%、転居 1.1%であった。地域別では出雲地域 48.7%、斐川地域 21.3%、平田地域 15.2%の順で高く、この3地域で全体の 85%を占めていた。



## 2. 分析対象者の状況

### 基本属性

在宅生活を継続する70人のうち5月以降サービス利用を開始した方が27.1%、残り72.9%の51人が未利用の状態にあった。

未利用状態の方51人中、過去にサービス利用のあった方が26人、利用したことのない方が25人の状況であった。

要介護度では要介護2が最も高く84.3%、認知症日常生活自立度ではⅡbが66.7%であった。

図 14 在宅生活者の状況 (n=70)

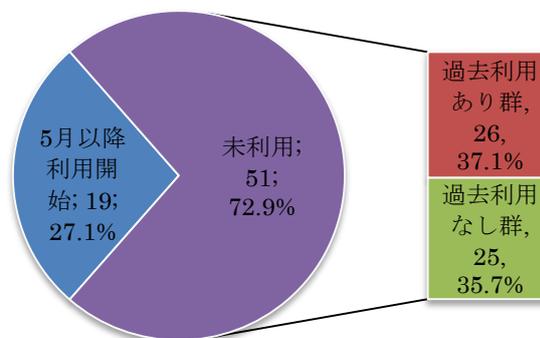


図 15 未利用者の性別 (n=51)

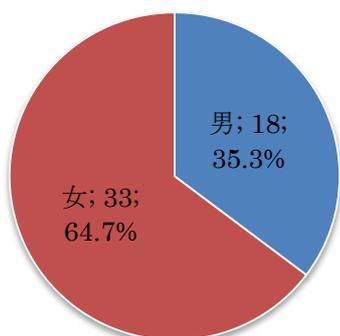


図 16 未利用者の年代 (n=51)

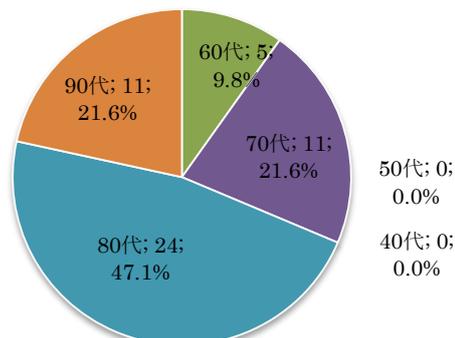


図 17 未利用者の要介護度 (n=51)

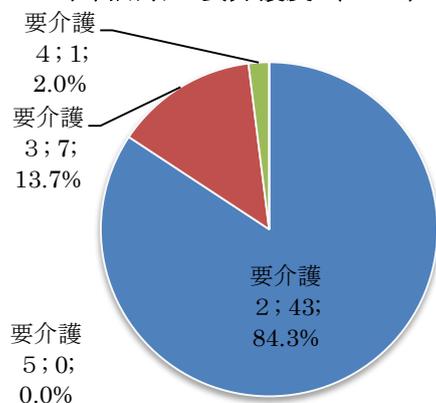
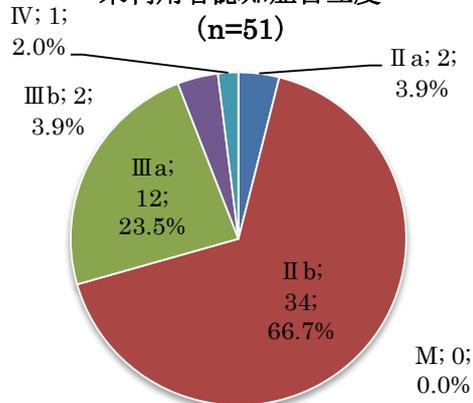


図 18 未利用者認知症自立度 (n=51)



### 未利用者の要介護度と認知症高齢者日常生活自立度

要介護度別に占める認知症高齢者日常生活自立度の割合では、要介護2ではⅡbが76.7%を占めているが、要介護度が高くなるに従い認知症高齢者日常生活自立度が重度となっている。認知症日常生活自立度に占める要介護認定の割合では、重度になるに従い介護度は高くなる傾向がみられた。

図 19 要介護度からみた認知症自立度状況<未利用>

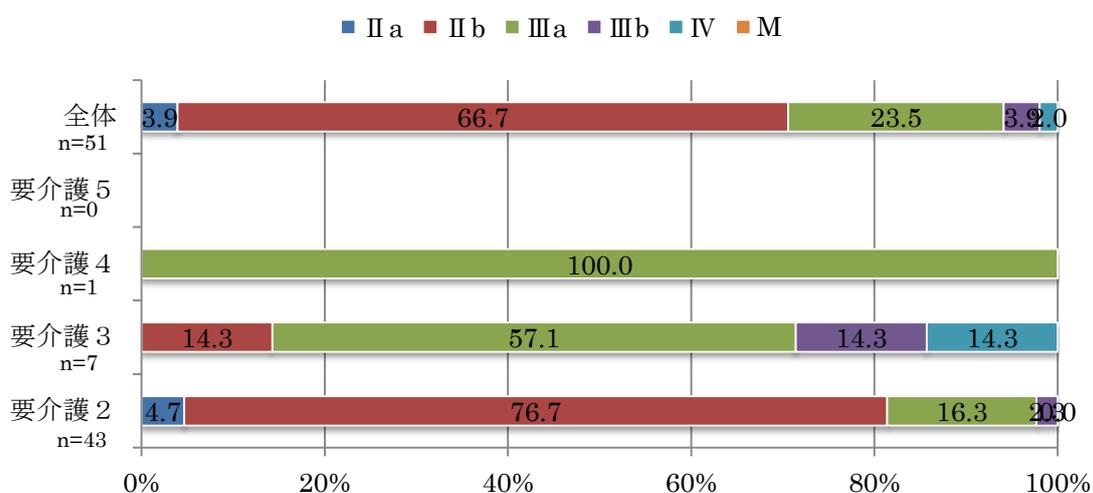
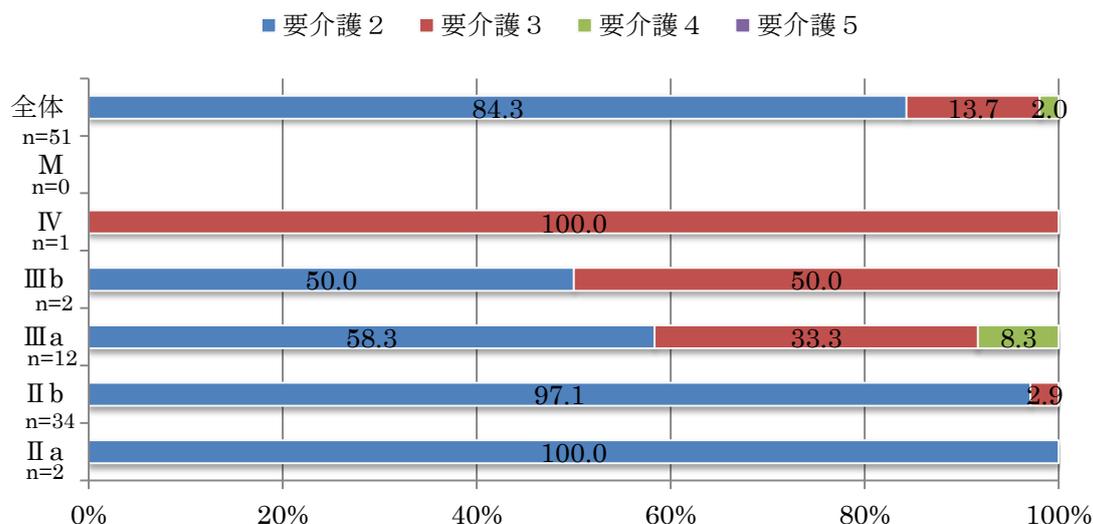


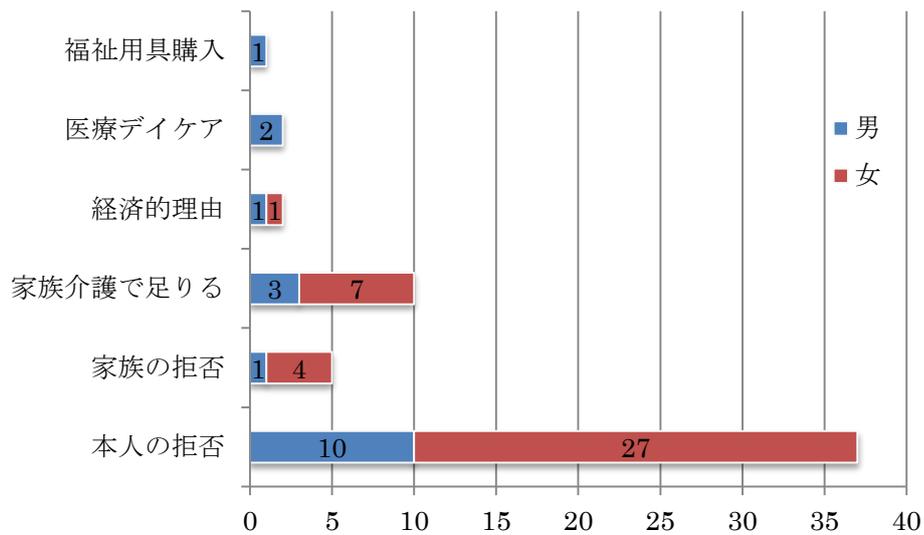
図 20 認知症自立度からみた要介護度状況<未利用>



### 未利用者のサービス未利用の理由

未利用者の方のサービス未利用の理由としては「本人の拒否」が最も多く、次いで「家族介護で足りる」、「家族の拒否」の順であった。

図 21 サービス未利用の理由（複数回答:n=57）



### 過去に利用したサービス/中止した理由

未利用者の方の中で、過去に利用したことのあるサービスとしては、通所介護が最も多く、次いで住宅改修、福祉用具、短期入所の順であった。最も多く利用されていた通所介護について利用を休止した理由からみると、身体状況とサービス内容とのズレなどから本人の利用拒否につながってしまった状況がうかがわれた。

図 22 過去に利用したサービス (複数回答:n=28)

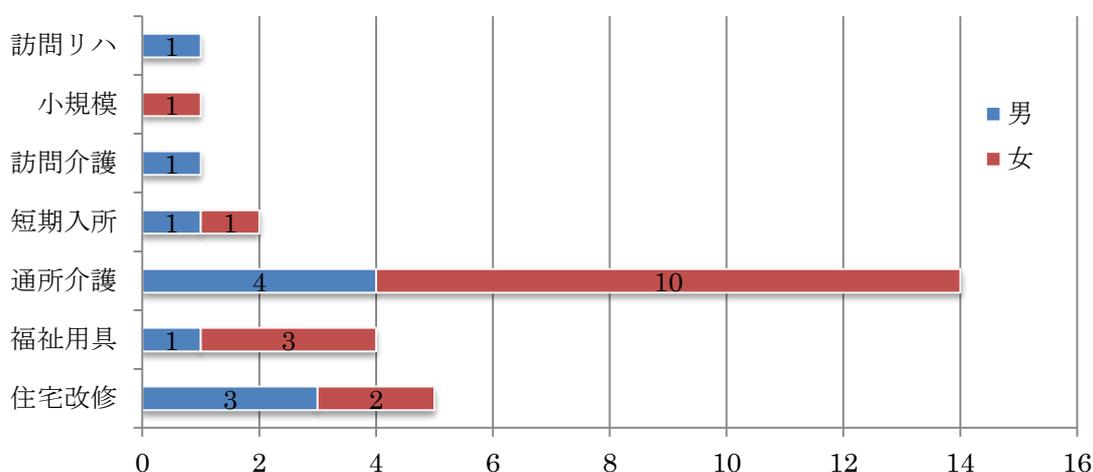


表 3

要介護度	認知症高齢者日常生活自立度	年齢層	性別	過去利用サービスを休止した理由
2	Ⅱ b	70	女	膝の手術後、足を下げてしていると痛むため寝ていることが多くレクなどにも参加できないため
		80	女	体調が悪く中止となった。サービス内容がハードすぎた(外での運動会、遠足)。 落ち着いているので
			男	目が全く見えないので人の中に出る気がしない 本人がいやだと言った
	Ⅲ a	90	女	なまけものなのでやめた(本人) 平成20年頃まで利用していた きちんと時間が決まっていた嫌だった。早めに帰りがかったけれど帰れなかった。
			70	男
		80	女	本人が拒否した
3	Ⅱ b	90	女	風邪をひいてからやめた。昨年まで利用していた。
	Ⅳ	80	女	本人が嫌がったのに行かせたので状態が悪くなったと夫が言うためやめた。
4	Ⅲ a	80	男	嫌がるのと、体調不良のため入院したりしたためやめた。

### 未利用理由「本人利用拒否」と要介護度/認知症高齢者日常生活自立度

未利用者の方の中で、過去にサービス利用あり群と過去にサービス利用なし群の2群に分け、要介護度と認知症高齢者日常生活自立度をみると、過去に利用あり群では要介護度2が88.9%を占め、利用なし群では78.9%であり、介護度が利用あり群に比べ高かった。認知症自立度からみると利用なし群で重度となっている。

図 23

#### 「本人利用拒否」と要介護度

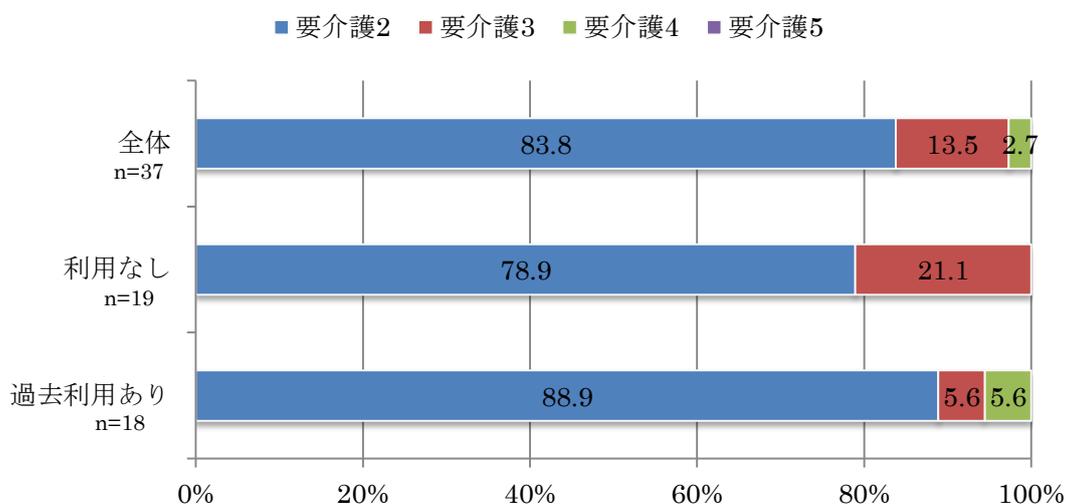
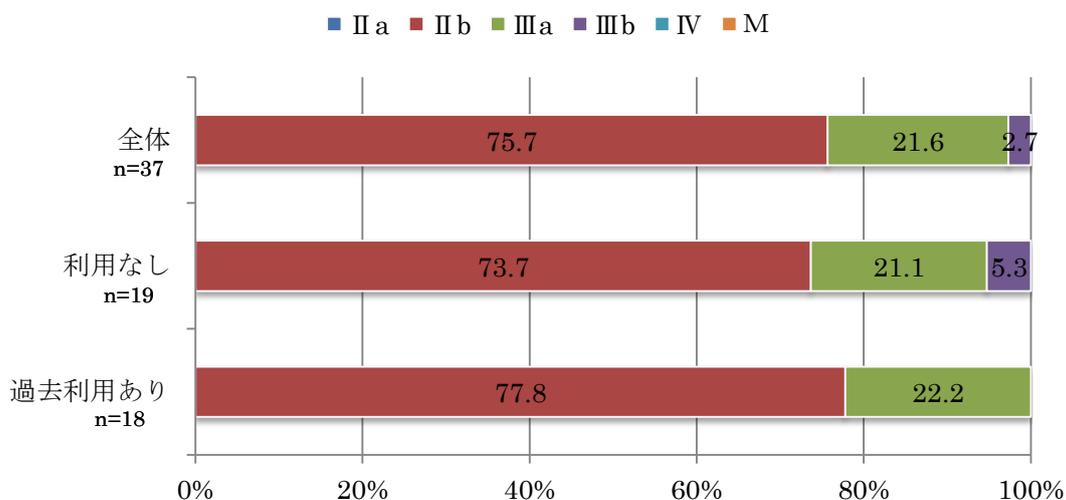


図 24

#### 「本人利用拒否」と認知症自立度



### 未利用者の日常生活自立度(ADL)の状況

過去にサービス利用あり群と利用なし群の日常生活自立度を比較すると、全介助の方で違いがみられた。過去利用あり群では全介助の状態となっても利用されないことがうかがえる。同居者の有無、受診の有無での違いはあまりみられないものの、ケアマネジャー訪問の有無では過去に利用あり群での訪問が少なくなる傾向がみられた。

図 25

過去サービス利用なし群 (n=25)

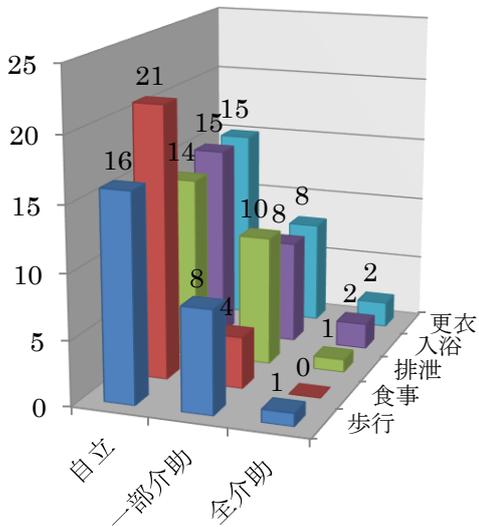


図 26

過去サービス利用あり群 (n=26)

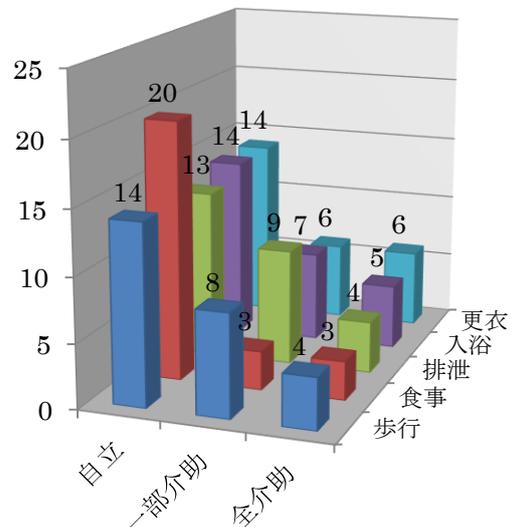


図 27

過去サービス利用なし群 (n=25)

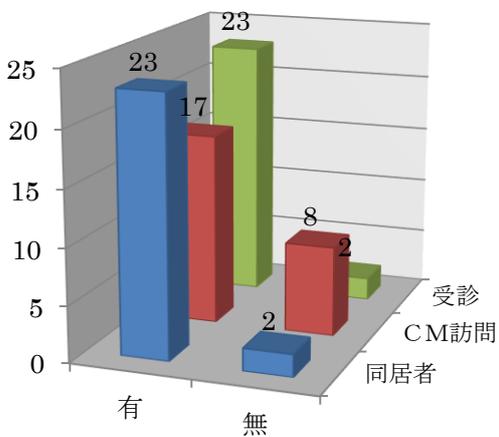
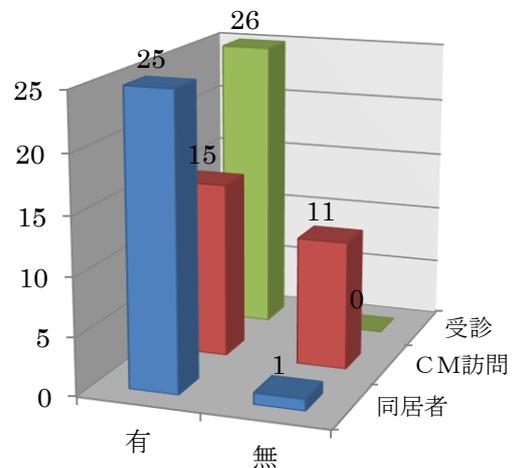


図 28

過去サービスあり群 (n=26)



## 未利用者の自由記入

表 4

<以前にサービス利用なし群>					
要介護 度	認知症高齢者日 常生活自立度	年齢	性別	介護者 の有無	主な自由記入
2	II a	60	女	いる	左麻痺(くも膜下)、糖尿病、皮膚疾患など多数病気をもっている。夫も心臓疾患があり発病後、振戦がでるようになった。妻に手をとられることが多くなったのでもうすぐ店をやめようと思う。今後はサービス利用も考えるかもしれない。本人は夫と共に店に出ていたがほとんど手伝いは出来ず一緒に居るだけ。
		70	男	いる	交通事故で頸椎を痛めたが車の運転している。
	II b	60	女	いる	自立支援サービスの通所を利用中(週に5日)。夫への依存が強く負担感から限界を考えると不安に思っている。いつサービスを利用するようになるかわからないと認定を更新している。
			男	いる	本人はデイに出かけてもよいとおもっているが、息子妻は自分が家におり世話ができるので必要性を感じていない。
		70	女	いる	隣近所に不審をもっている。家に他人が入ることを警戒される。認知症デイに結び付けようとしたが本人の拒否があり出来なかった。主治医に相談したところ「行きたくないならいなくてよい」と言われた。
					いない
		80	女	いる	デイを利用して入浴をして欲しい。 独身の50代の息子との二人暮らし。日中は一人で過ごすのがラジオの音楽を聞きながら新聞や本を読んですごしている。買い物は娘がしてくるため不自由はない。人中のうるさい所へは出たくない。 デイサービスなど利用してほしいと思っている。毎日寝てばかりいる。時々迷子になり困る。申請当初、施設へ見学に行っただけで本人が嫌だと言ったので使えないが、今後使いたいと思うが誰にどの様にしたいかわからない。
			男	いる	耳が遠い。息子との二人暮らし。近所に次男がいたが亡くなられた。デイは契約直前までいったが本人が嫌がり利用にはならなかった。
	90	女	いる	H24.3妻死亡。長男夫婦が大坂から帰ってきて同居するようになったが関係が悪い。食事は作ったものを置いてくれる。2年前から自転車止めた。外出出来ない。娘が病院の通院には連れて行ってくれる。飲みに行けなくなったので飲酒量が減った。昨年までは友人がいちじく温泉に連れていってくれたが、その友人が亡くなった。自分のペースで生活しているので特に困らない次回の認定は見送る。	
		男	いる	本人、耳が遠い。5年前にペースメーカーの手術をした時に認定をうける。娘が京都からもどり同居し介護をしている。必要なときショート利用したい。	
III a	80	女	いる	人の中にするのが好きでないのでサービスを使っていない。今回更新しなかった。主治医からは訪問看護を今後利用するとよいと言われた。半日程度は留守が出来るので買い物やコミセンのボランティアの集いには行っている。なるべく本人にやってもらおうようにしている。押し車でトイレまでいき自分でしている。大声を出したり裸になったりの問題行動あり。特別な用事の時は親戚に頼んでいるが外出しにくい。もう少し弱られたらショートを使いたい。状態が悪化した時どうなるか不安。	
3	III a	80	女	いる	同居の次男は大工で日中は一人。三男が長距離トラックの運転手をしているため夕方まで本人宅で仮眠をとり出かける。本人は一人になると里へ帰ると出かけ帰れなくなるため探し回ることがある。一人でいる時を少しでも減らしてもらえようサービスがあるよい。
		90	女	いる	昨年、**病院へ入院。入院中に認知症が悪化し退院後は自分の里へ行くと言ってでて行って帰れなくなったりしている。孫の言うことはなんとも何とか聞いてくれる。
	男		いる	家族はショートを使ったりしてほしいと思う。困ったらCMIに連絡する。 サービス利用をしない理由。本人は民生委員を3期務め施設訪問にもボランティアで行っていたのでデイサービスの職員と面識があるので拒否しているのではないかと妻の考え。難聴があり会話ができない。妻はきちんとしていないといけな性格なのでヘルパーに来てもらうことが負担に感じている。本人、畑に行くと草取りをする。ほとんど毎日10分程度の散歩をしている。10時と15時の妻とお茶が楽しみ。83歳まで運転をしていた。バスの運行が悪く外出が出来ない。墓が平田にあるので墓参りが出来ない。県外の長男と長女が交代で帰省してくれるが、月のうち7~10日間位いない時がある。その時にどちらかの具合が悪くなった時、助けが欲しい。	
	III b	80	女	いる	昼間は本人と夫と二人。夫も介護認定をうけている。息子夫婦で夫は息子、本人は嫁が入浴介助をしている。二人で留守番できるうちはこのままでよいと考えている。

表 5

<以前にサービス利用あり群>						
要介護 度	認知症高齢者日 常生活自立度	年齢	性別	介護者 の有無	主な自由記入	
2	Ⅱb	70	女	いる	本人夫も要介護認定を受け週1回デイ利用中。将来のことを考えると不安になる。本人拒否の理由。のんびりと過ごしたい。いろいろな事を集団でしないといけなが出来ないのてつらくなる。送迎の職員が同じ人だとよい(乗降の助言が丁寧でゆつくりな人とそうでない人がいる)。希望するサービス。いつでも行けるゆつたり出来る場所があるとよい。	
		80	女	いる	夫が介護者。食事作りが負担。夜4回トイレへ連れて行く。ゆつくり休めない。認知症が重度なので本人に合うデイサービスがないのではと家族が考えていた(調子が悪い時には自宅を監獄だと思っている)。同居の長男の関わりが薄く、通院は長女が行っている。	
					息子と二人暮らし、家族も疲れているので今後はショート利用したい。希望するサービス内容。体調に合わせて横になれるとよい。	
		80	男	いる	嫁としてはデイを利用してはと思っているが、息子が無理に利用しなくともよいと思っている。	
					インスリン、イクセロンパッチを使用しているが特に問題ない。ほとんど自立しているのでサービスは今はいらない。	
		90	女	いる	妻が毎日、一日3回の薬を飲んだかどうかの確認をされることに困っている。腰痛あり屋外は押し車利用。布団をしまい座布団を用意するなどの世話が負担になっている。日中は何もすることがなくラジオを聞いている。最近家の周りの散歩が杖を使って出来るようになった。気分転換が出来るようになった。	
					左大腿より切断。毎日、尿もれがある。布団でねている。すぐに怒り物を投げる。自分も充分でないで、施設等に入ってほしい。短期でもよい。	
		Ⅲa	60	男	いる	日中独居。一人でバスにのり通院している。
						いちじくの時期になったら昼過ぎに帰るようになるのでデイサービスに出かけて欲しい。身体具合が悪い人ばかりだと思い込んでいるためデイサービスに行くのは嫌だと思っている。伝習館で月1回ある高齢者サロンには出かけている。テレビを一日中みている。
						本人がサービス利用を拒否した理由。耳が遠いため集団での行動が出来なくなった(左耳聞こえない、右聞こえずらい)。トイレが近く頻繁に行くのがそのたびにトイレの近くで待たれるのがいやだった。8/16～新築のためアパートに転居。福祉用具(ベッド、トイレ)は姉が使っていた物を譲り受けたのでH15年に認定は受けたが一度も利用していない。介護者が都合が悪い時は介護者の妹(本人にとって実子)にみてもらっている。介護者がいないと不安がられる。昼夜逆転しておりゆつくり眠れない。緑内障、腰痛、膝痛の治療中。気軽に外出出来ないで通院。買い物が出来ない。Pトイレ、シャワー椅子購入。娘さんが自由な時間がなく困っている。CMから認知症の人対応のサービスの紹介などもしてもらえれば。
Ⅲb	70	男	いる	出かける時にデイが使いたい		
				自分のことはほぼ出来る。隣近所の人とはわからない。同居の息子は調理師のため朝早く夜遅く帰る。間の休息には帰ってきて寝ている。息子の介護支援はあてに出来ない。高齢の夫が介護者。元調理師だが毎日の食事作りが大変。夫も週一回の訪問リハビリを受けている。		
				認知症のデイケア(医療系)サービスを利用している		
3	Ⅳ	80	女	いる	何でも自分で出来る。困る事は酒びたりでお金をもつとスーパーへ買いに行く。最近あまり飲まない。	
					妻、昭和6年生まれ。自分の身体が動かなくなったら考える。妻が病院へ入院した時に息子が仕事をやめて介護や病院受診などの手伝いをしてきている。	
					家族関係悪く特養申し込み中。	
4	Ⅲa	80	男	いる	特に困ることはない。買い物、温泉など一緒に連れだしている。	
					**県**市から母と弟を引き取り面倒をみてきた。母は亡くなり弟の介護をしている。家族には迷惑をかけられないと介護者一人でみている。「自分も高齢になって介護が大変になってきた。これ以上悪くなったらどうしよう」という不安がある。本人はもともと療育手帳A所持、発語なし、寝れないと独り言を言っている。透析の日は服を着替えて待っている。便秘気味で下剤を飲んでる。便が出た日は「〇」をするなど認知症のレベルは悪くないと思われる。玄関の上がりかまちに手ずりが欲しい。介護者が上げるのに苦労している。	
3	Ⅳ	80	女	いる	息子が他人が家の入るのは好まず。夫も親類まわりの小規模多機能施設に行ったら悪くなったと言いつける。	
4	Ⅲa	80	男	いる	本人はショートを嫌がるが、本人妻が心臓が悪く受診や入院時にショートを使ってほしかった。6月もショートを予約したが、本人が体調不良のため入院となり利用はなくなった。家で2人を介護しているのでチャンスがあればショートを使いたい。	

### 3. 今後の課題

- 1) 平成25年4月末で要介護2以上かつ認知症自立度がⅡa以上でサービス利用されていない方が263人、うち70%を占める184人の方が入院中の状況であった。入院者の要介護度、認知症日常生活自立度は、ともに重い方の占める割合は高い。在宅生活への受け入れは、核家族化が進み、家族の介護力で維持することが難しいことから、入院が長期化している状況も推察される。なかには“転院のための条件”として転院先の病院から介護認定を受けることを求められた方も見られた。介護保険施設への入所待ちなど様々な状況が考えられるものの、医療機関から在宅や介護保険施設（入所系、在宅系）への調整機能の強化が求められる。
- 2) 在宅生活者のなかで、利用しない理由として「本人拒否」によるものが最も多かった。過去にサービスを利用したものの中止をした方の理由からは、施設のサービス内容と本人の状態のズレから拒否につながり、以後、初期のサービス導入時の負のイメージが継続していることが推察される。認知症の方へのサービスの導入の際には、本人の状態の調整が求められるとともに、サービス提供者側の認知症の方への個別プログラム内容の充実や柔軟な対応が求められる。
- 3) 過去にサービス利用あり群と利用なし群の2つの群に分けた比較から、在宅生活者では日常生活自立度（ADL）が比較的自立しているため認知症があっても家族介護で対応ができているものの、過去にサービス利用あり群では、介護のなかでも負担が重い排泄や入浴が「全介助」となっても家族が介護を継続している状況がうかがえた。自由記入には“介護者自身の状況から介護ができなくなった時への不安”への訴えも多く、介護者の悩みや不安などの共有できる場（認知症の人と家族の会等）の広がりが求められる。
- 4) ケアマネジャーからの働きかけについては、未利用者でも定期訪問によりなじみの関係になっているか否かによって温度差がみられた。自由記入に「今後使いたいと思うが誰にどの様にしてよいかわからない」等の訴えもみられた。また、過去にサービス利用し休止した場合、ケアマネジャーの定期訪問が少なくなる傾向がみられた。認知症の方へのアプローチ方法や家族支援などの研修が求められる。

### Ⅲ. その他の調査結果

#### 1. 入院者 (n=184) と在宅生活者 (n=70) の状況

入院者と在宅生活者の地域別割合をみると、出雲地域で入院者が 45.1%であるのに対し在宅生活者では 57.1%であった。斐川地域では入院者が 25.0%であったのに対し在宅生活者では 11.4%の状況であった。

図 29 入院者の地域別 (n=184)

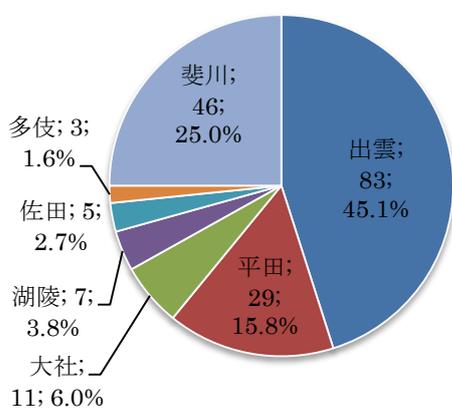


図 30 在宅生活者の地域別 (n=70)

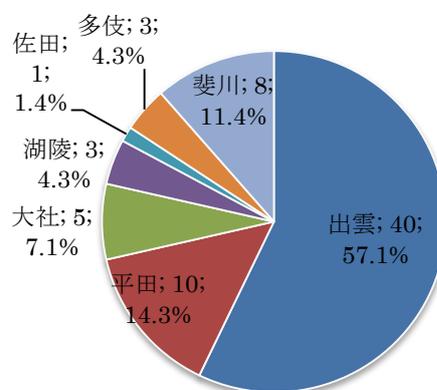


図 31 入院者の年代 (n=184)

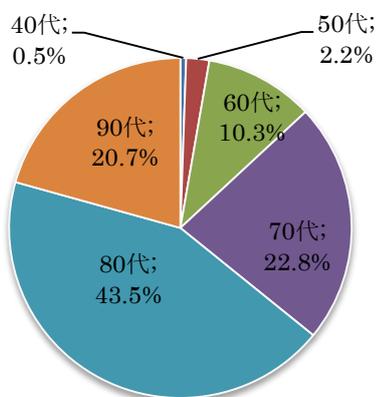
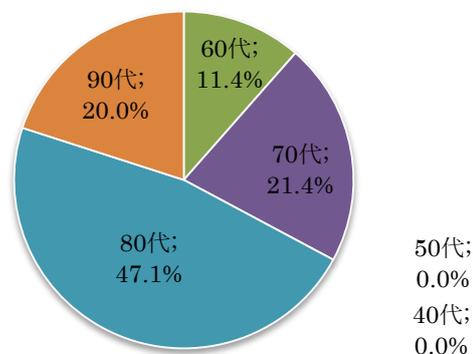


図 32 在宅生活者の年代 (n=70)



入院者と在宅生活者の要介護度をみると、入院者では要介護5が38.6%と最も高く、次いで要介護4が24.5%、要介護3が20.1%と介護度が高い方の割合が高かった。在宅生活者では要介護2が81.4%、次いで要介護3の14.3%と介護度の低い方の割合が高かった。

図 33 入院者の要介護度 (n=184)

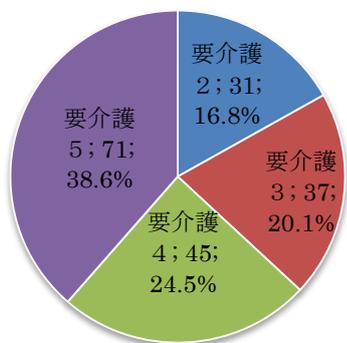


図 34

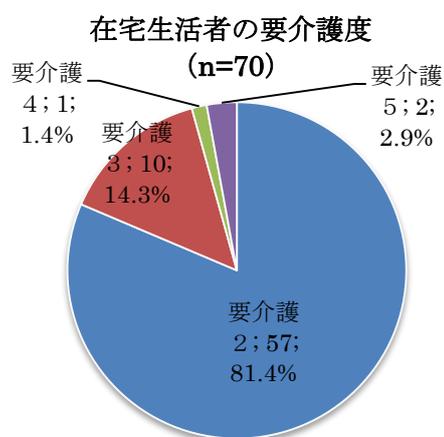


図 35

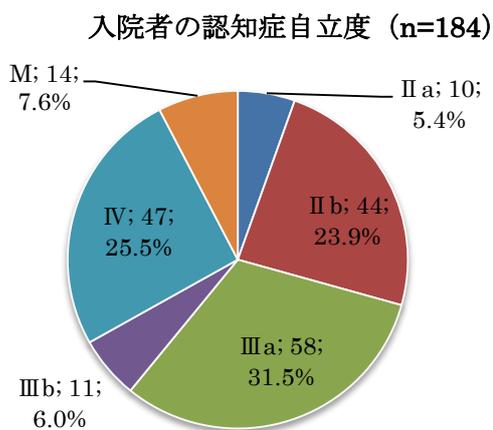
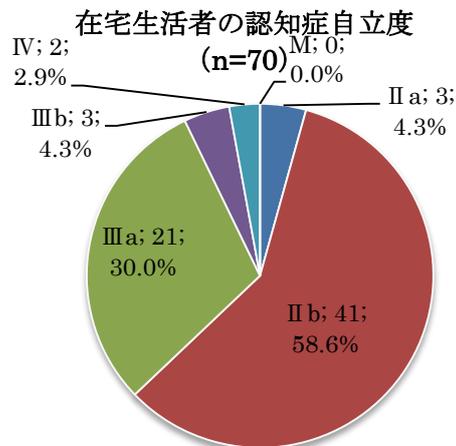


図 36



### 年代別の要介護度/認知症高齢者日常生活自立度

年代別では、入院者のなかで割合は多くないものの40代の方がみられ、介護度5と認知症高齢者日常生活自立度Ⅳと、重度の状態であった。

図 37 入院者の要介護度からみた年代状況

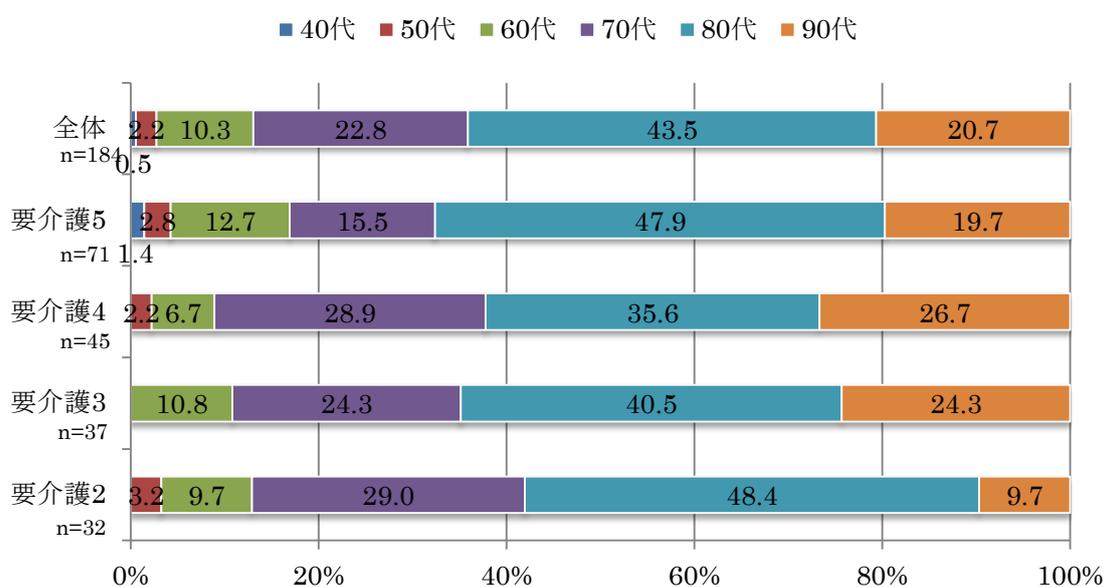


図 38 在宅生活者の要介護度からみた年代状況

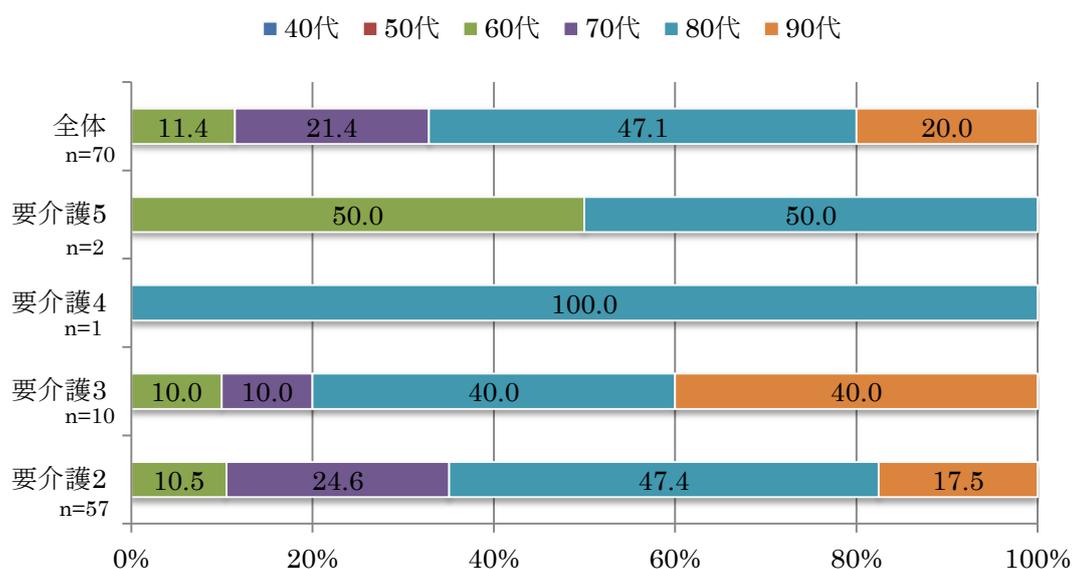


図 39

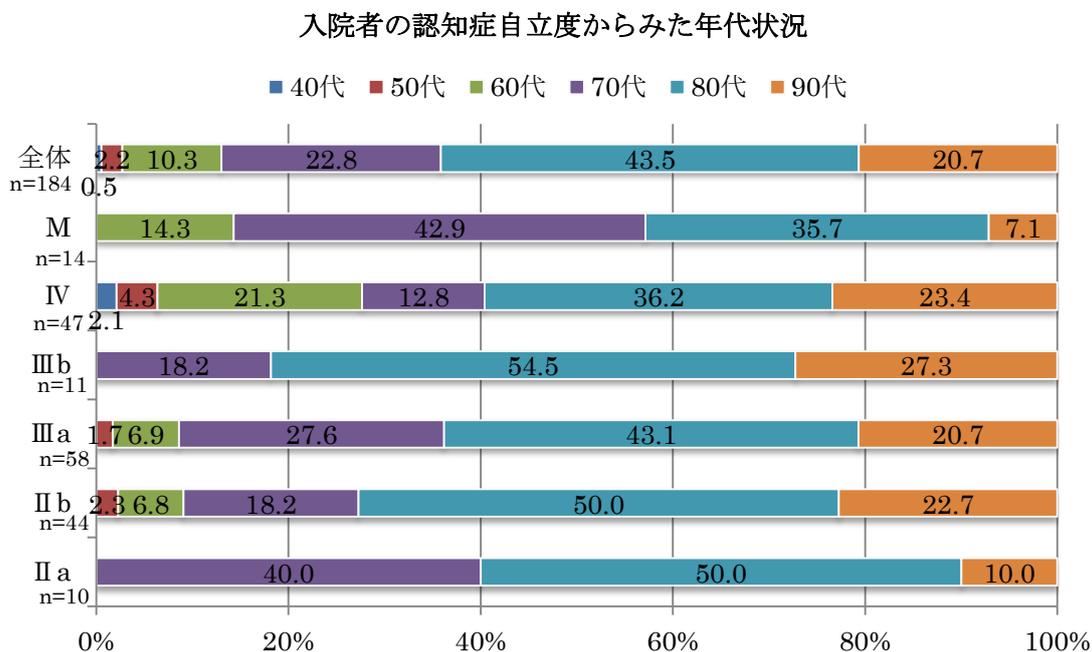
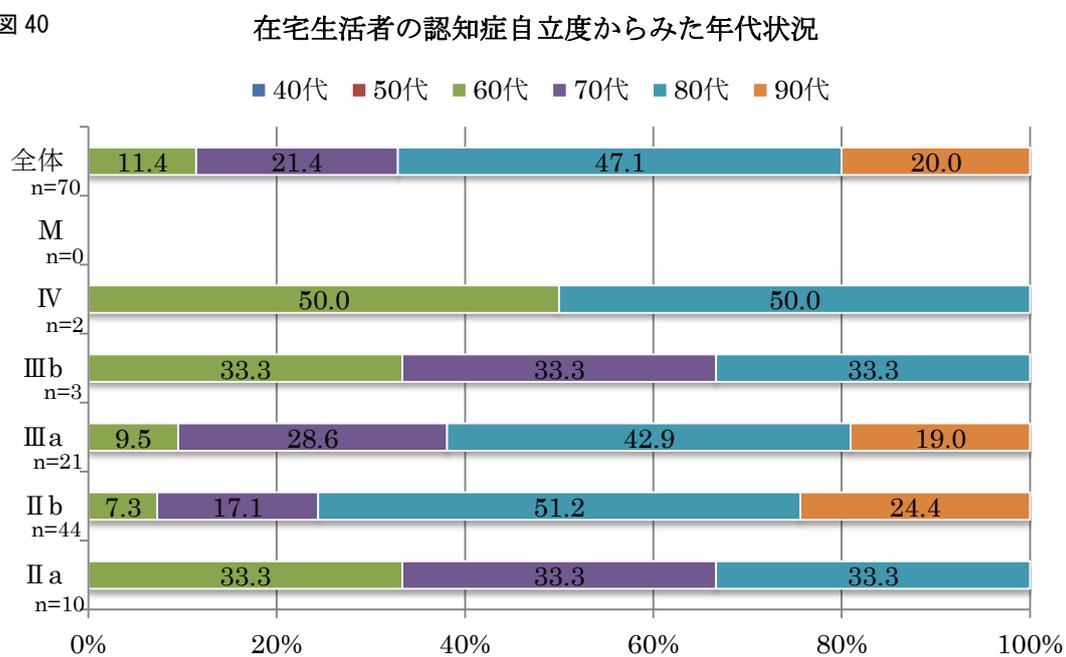


図 40



## 入院者の自由記入

表 6

<入院>				
要介護度	認知症高齢者日常生活自立度	年齢層	性別	主な自由記入
2	Ⅱ b	70	女	h25.1、糖尿病の管理がわるく腎不全のため**病院へ入院治療後、**病院へ転院。家庭環境もあり在宅は難しい。退院の予定はなし。生活保護。
	Ⅲ a	70	女	今までは夫が介護していた。8月初めより状態がわるくなり入院中。もう帰らないだろうとのこと。
4	Ⅱ a	80	女	脳出血の後遺症のため左麻痺あり。入院のためサービス利用を中断。入院中に足が弱り歩行困難になった。現在、CMと相談中で近いうちに決定する。
	Ⅲ a	70	女	難病、連休後に介護者が亡くなり急遽入院。
		90	男	約1年前に**病院へ入院治療後、転院。現在、危篤状態で在宅へ戻ることはない。
	Ⅲ b	80	女	h24.10 脳梗塞(左半身麻痺)に入院。その後、転院しリハビリ中
	Ⅳ	50	男	19歳の時に統合失調発症。今年、3月に脳溢血で**病院へ入院。その後、転院を検討した際に転院の条件として介護認定を受けるよう言われ認定をうけた。検討した病院への転院にはならず他の病院へ移り現在に至っている。ベット上で寝たきりの状態でもあり家に帰ることはないと思う。退院となることはないと思うが、退院となった際には相談したい。
60		男	アルツハイマーを56歳の時発症。ネーム刺繍の仕事を家内でしていたが配達の際、場所がわからなくなるなどしていた。	
5	Ⅲ a	80	男	H23.7より糖尿病の悪化及びじょくそうがひどくなり入院となった。
		90	男	これまで週3回のヘルパー、デイサービス、ショートを利用しながら在宅で生活していたが、H25/1に**病院へ入院。その後、他の病院に転院したが在宅の見込みはない。
	Ⅳ	40	女	H23.9**病院入院後、他の病院に転院(1年半在宅療養していた)。じょくそうがひどくなり**病院入院後、転院。ハンチントン病、嚥下困難なため胃ろう増設した。

## 2. 5月以降サービス利用開始者 (n=19) の状況

図 41 利用開始者の性別 (n=19)

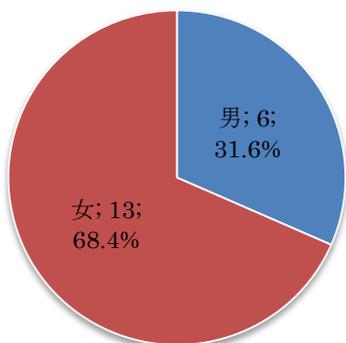


図 42 利用開始者の年代 (n=19)

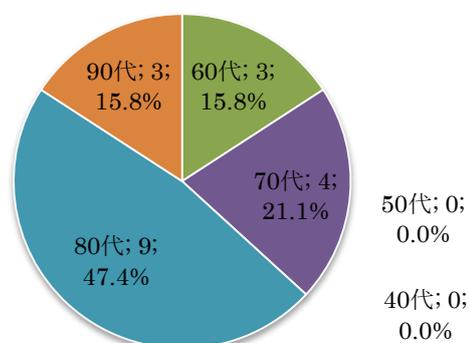


図 43 利用開始者の要介護度 (n=19)

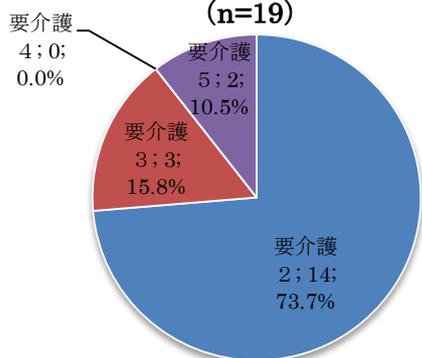


図 44 利用開始者認知症自立度 (n=19)

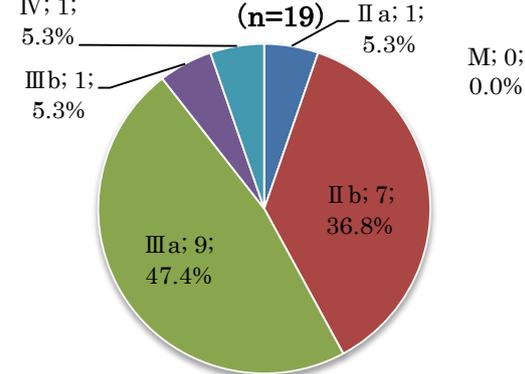


図 45 要介護度からみた認知症自立度状況<利用開始>

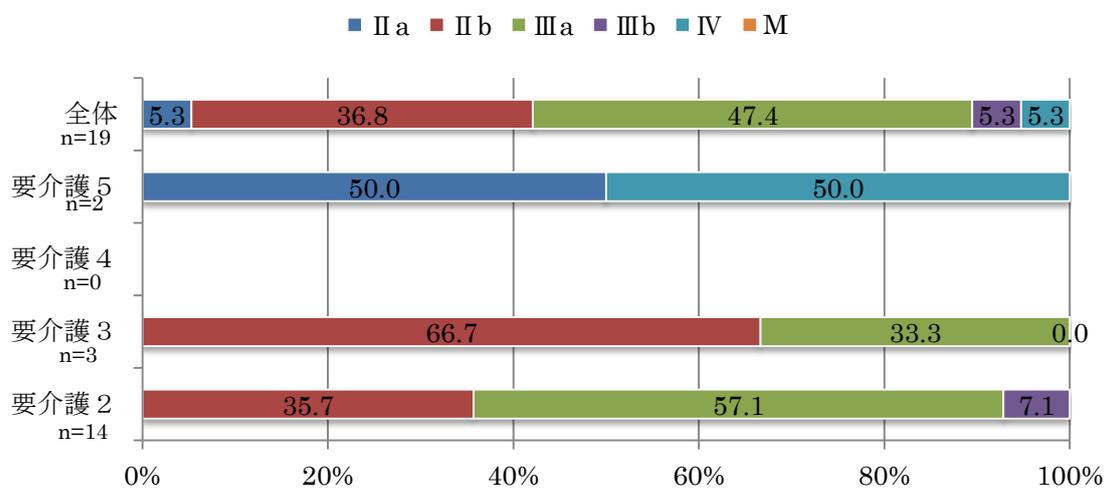


表 7

<5月以降にサービス利用を開始>					
要介護 度	認知症高齢者日 常生活自立度	年齢層	性別	介護者 の有無	主な自由記入
2	Ⅱ b	80	女	いる	難病が主。本人が好きなように日中はすごしている。家族としては、本人が介護に対して「あった」することがあり困る。
		90	女	いる	鬱が主。7.3転倒し骨盤にひびがはいり福祉用具を開始した。
	Ⅲ a	70	女	いる	夫への嫉妬妄想あり。
		80	女	いる	昨年夏、同居していた息子が急死。その後、市内在住だった娘がもどり介護を開始した。
3	Ⅱ b	80	女	いる	妄想、夜中に洗濯物をかかまったりと娘婿がへとへとになっている。娘が事故で歩行が困難（脳へのダメージあり）。
	Ⅲ a	90	女	いる	本人がサービス利用を望まなかった。市内在住の長男が毎日泊まりにくるが、これない日はショートを利用。ショート利用時にデイを見学したところ利用するようになった。
5	Ⅱ a	80	男	いる	10年前よりパーキンソン病。9.20より訪問入浴を利用したが、誤嚥性肺炎にて9.24入院となり胃ろうを造った。

### 3. 死亡者 (n=6) と転居者 (n=3) の状況

図 46 死亡者の年代 (n=6)

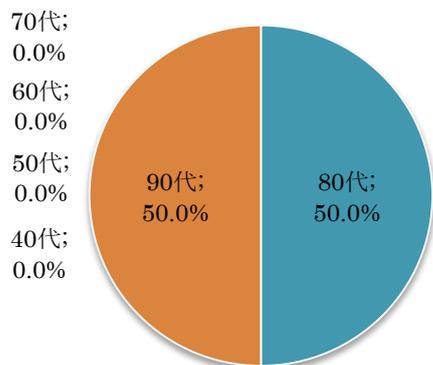


図 47 転居者の年代 (n=3)

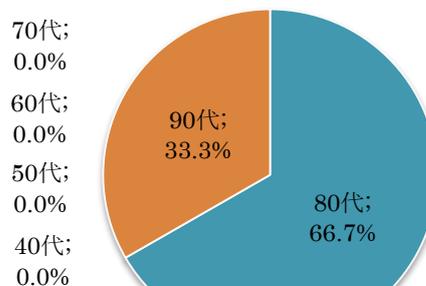


図 48 死亡者の要介護度 (n=6)

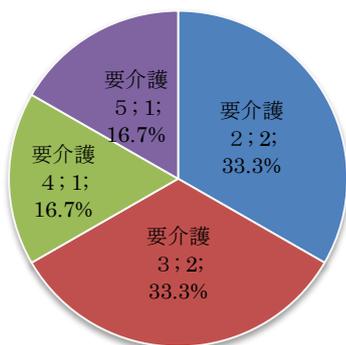


図 49 転居者の要介護度 (n=3)

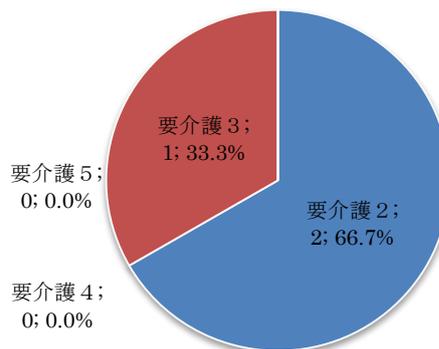


図 50 死亡者の認知症自立度 (n=6)

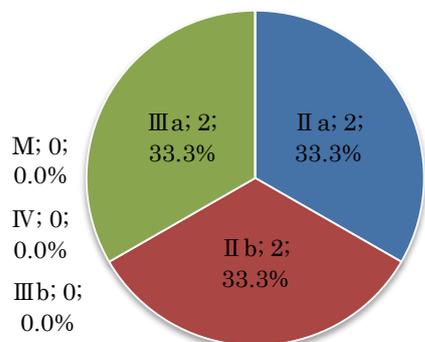


図 51 転居者の認知症自立度 (n=3)

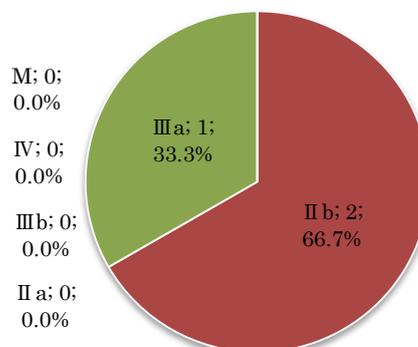


表 8

<死亡者>					
要介護 度	認知症高齢者日 常生活自立度	年齢層	性別	介護者 の有無	◆サービス未利用の理由 ◇主な自由記入
3	Ⅱ a	80	男	いる	◆家族が介護をしているので、サービス利用の必要がない。 ◇末期癌。ストマの管理が家族で出来るようになりサービス利用を終了。本人は近所の目を気にしていた。

## IV. 資料等

表9 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準

	判定基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にはほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来すような症状、行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
II a	家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
II b	家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応など一人で留守番ができない等
III	日常生活に支障を来すような症状、行動や意思疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。	
III a	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便、排尿が上手にできない、又は時間がかかる。 やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、はいかい、失禁、大声、奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
III b	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる。	ランクIIIaに同じ。
IV	日常生活に支障を来すような症状、行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ。
M	著しい精神症状や問題行為あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等

## H25認知症介護保険未利用者アンケート調査票

被保番		住所	出雲・平田・佐田・多伎・湖陵・大社・斐川
性別	男 ・ 女	生年月日： 年 月 日	認定調査日： 年 月 日
要介護度	2 ・ 3 ・ 4 ・ 5	認知症高齢者の日常生活自立度	Ⅱa ・ Ⅱb ・ Ⅲa ・ Ⅲb ・ Ⅳ ・ M

### 現在の日常生活動作（ADL）

歩行	a.自立	b.一部介助	c.全介助
食事	a.自立	b.一部介助	c.全介助
排泄	a.自立	b.一部介助	c.全介助
入浴	a.自立	b.一部介助	c.全介助
着脱衣	a.自立	b.一部介助	c.全介助

### 現在の認知症の程度

軽度	仕事や社会活動では障害を認めるが、自立した生活を営むことは可能で、衛生面は保たれ、判断力はほぼ正常である
中等度	自立した生活を営むことが困難で、ある程度行動への指示が必要である
重度	日常生活動作(ADL)に障害(最低限の衛生状態を保てない)があり、常に見守りや指示を必要とする 会話はまとまらず意思疎通が困難
不明	(理由)

### 家族または身近に介護をする人がいますか

いる	a.同居の親族	b.別居の親族	c.親戚	d.知人
	e.その他（ ）			
いない				

### 介護保険サービスを利用しない理由（複数回答可）

1	本人がサービス利用を拒否する
2	家族などがサービス利用を拒否する
3	家族以外の介護を拒否する
4	家族が介護をしているので、サービス利用の必要がない
5	経済的な事情で、利用料の支払いができない
6	認知症のディケア（医療系）サービスを利用している
7	福祉用具購入や住宅改修の利用希望で要介護認定を受けた
8	本人や家族等が希望するサービスメニューがない
9	施設の入所を待っているため
10	入院・入所中
11	自宅以外に住まいしていてサービスの利用がない
12	5月以降にサービス利用を開始した
13	その他（ ）

前質問で「8本人や家族等が希望するサービスメニューがない」と回答された方へ					
どのようなサービスがあれば、利用する気持ちになるとおもわれますか。					

担当する居宅支援事業所のケアマネージャから連絡がありますか					
ある	a：定期的に（訪問 電話 その他）				
	b：不定期に（訪問 電話 その他）				
	居宅支援事業所：			担当者：	
ない	担当している事業所（覚えている 覚えていない）				

定期的に医療機関を受診していますか					
している	a：定期的に（通院 在宅診療）				
	b：不定期に（通院 往診）				
していない	（理由）				

<自由記入欄>					

調査日				月 日	
調査方法				訪問・電話	
調査員					

